１．安全・安心で質の高い食産業の構築

- 担い手不足に対応した効率的な産業構造の構築
- 自然環境と調和した持続可能な産業構造の構築
- 豊かな自然環境を享受した安全・安心な「食」の生産
- 食の高付加価値化・ブランド化の推進
- 輸出を含めた販路開拓拡大を支える物流機能の充実

（基本的な考え方）

釧路・根室地域は、基幹産業である農業や水産業などに裏付けられた安全・安心で質の高い「食」を、第２次、第３次産業を含めた食産業全体として供給が可能な地域である。このため、安全・安心で質の高い食材の生産から、加工（高付加価値化）や輸出などの販路拡大も含めた特色ある食産業の構築を図る。

（具体的な取り組み）

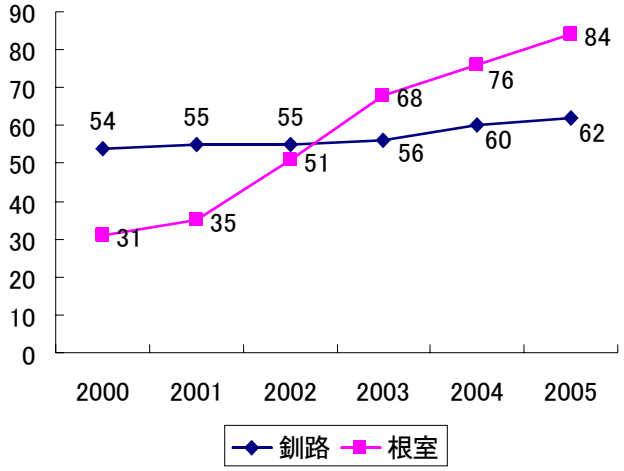
・食産業の土台となる第１次産業の持続的な発展が重要であるが、「担い手不足」が第一次産業にとって深刻な問題となっている。「担い手不足」に対応するため、関係機関などとの連携を強化しつつ、建設業など他産業や他地域などからの新たな担い手の取り込みのほか、各種ノウハウの吸収や法人化[注14]などによる経営の効率化を図り、持続可能な産業構造を目指す。

注14）釧路・根室地域の農業生産法人数は2000年の85から大きく増加し、2005年には146を数え、増率では全国及び北海道の水準を大きく上回る。（図表12参照）

また、2003年のコントラクター数は、釧路支庁管内の７、根室支庁管内の26で計33となり、北海道の18.6%を占めているが、とりわけ根室は空知支庁管内の40に次いで多い。

なお、乳用牛の法人数は37経営体で飼養頭数13,614頭と管内の4.4%、１経営体あたりでは368頭と管内平均（110頭）を上回る。同じく肉用牛は30経営体で31,435頭と管内の5.9%、１経営体あたりでは1,048頭ち管内平均（160頭）を上回る。

図表12　釧路・根室管内における農業生産法人数の推移



資料）北海道調べ

・釧路・根室地域の恵まれた自然環境を享受した安全・安心で質の高い「食」の生産は、釧路・根室地域のみならず全国・全道の消費者にとっても重要であり、自然環境と調和した産業振興を図るため、資源循環型[注15]の産業の確立を目指す。

図表13　釧路・根室地域における資源循環型施設の状況

名称	運転開始	発酵槽容量 立米	ガス発生量 立米／日	利用戸数 戸	利用頭数 頭	耕地面積 ヘクタール
仁成ファーム	2001		600	1	270	
開新牧場	2004	540	1,016	1	650	210
清和牧場	2004	470		1	430	263
藤田牧場	2003		480	1	110	
別海町酪農研修牧場	1999		8	1	40	
別海資源循環試験施設	2001	1,500	1,500	9	1,000	
JA別海水沼牧場	2001	200	330	1	170	

資料）釧路開発建設部資料

・釧路・根室地域における森林は有力な資源であると同時に自然環境を構成する重要な要素であることから、まちや農地、川、海とのつながりといった視点から、その保全と活用を図る。

・安全・安心で質の高い「食」の提供など食産業と観光産業との連携を強め、域内での消費・生産活動の増加などにより域内循環をさらに活発化させ、域内循環型

注15）釧路・根室地域における、家畜ふん尿などの資源循環型施設数は７施設となっている。これら施設の利用頭数をみると、合計で2,670頭となっており、地域全体の29.7万頭うち、およそ0.9%となっている。（図表13参照）

経済の構築を図る。

・豊かな自然環境を活かした安全・安心な「食」をより確固としたものとするため、引き続きＨＡＣＣＰの推進など、生産、製造、流通面での取り組みを強化する。

・安全・安心で質の高い「食」など釧路・根室地域の強みを将来に渡っても利活用するため、環境保全に加え、資源を枯渇させることなく「守る・活かす」取り組みを推進する。

・最終的には高付加価値化につなげる「釧路・根室地域ブランド」を育成するため、第１次産業による安全・安心で質の高い食（素材）の生産に加え、消費者ニーズを充分に捉えた加工、販売を促進させ、これらが連携した食産業の構築を目指す。

・「釧路・根室地域ブランド」を実現させるためには他地域との差別化を図る必要があることから、安全・安心で質の高い「食」や自然環境など釧路・根室地域の有する強みを、「本物」や「健康」といった視点にも着目して積極的に情報発信していく。

・スケトウダラなどについては物流アクセスの改善により韓国への輸出が活発化しているといった事例[注5]もあるが、海外、特に東アジアへの販路拡大の取り組みを促進する。

　こうした取り組みを支援するため、物流の効率化など道外・海外を視野に入れた物流、輸送システムを構築する。

２．自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興

・環境との調和や産業と連携した観光メニューの提供

・安全・安心な「食」をはじめとした他産業との連携

・国際化や個人観光に対応したサービス・情報の提供

・広域的連携による観光産業の振興

（基本的な考え方）

釧路・根室地域は、３つの国立公園や知床世界自然遺産を擁しているなど豊かな自然環境に恵まれ、雄大な酪農景観が形成され、安全・安心で質の高い農産物、水産物が生産されており、これらの資源によって海外観光客などが増加している。このように、自然環境や景観、地域の産業・生産物を、今後も観光産業に活かす余地が大きいことから、観光産業は有望な産業であると捉えられる。

観光産業により交流人口が増加すれば、釧路・根室地域の経済的基盤の底上げや、雇用の受け皿、人口減少による影響をある程度緩和することなども期待されることから、今後もその振興を図る。

（具体的な取り組み）

・観光産業の振興に向けては、自然環境や産業活動、特産品などの地域特性を活かしていくことが他の地域との差別化を図る上で重要な取り組みとなることから、各種資源や農水産業のグリーンツーリズム振興や食品加工など地域産業との融合をこれまで以上に図る。

・恵まれた自然環境を観光資源として活用していく上で、例えば流氷観光に影響をもたらす地球温暖化問題を含め、利用と環境負荷がトレードオフのような関係にあることなど環境の保護と利用に最大限配慮し、ＮＰＯや他産業などとの連携を取りながら自然環境と観光産業の共生を図る。

・釧路・根室地域の特色であり、資源でもある自然環境や景観、安全・安心で質の

高い地元食材などを活かし、「ここでしか味わえないもの」[注16]など新たな観光の発掘や体験型観光やガイドなど高付加価値化により地域内循環を活性化させる。

図表14　釧路・根室地域の主な特産品

特産品	市町村
みそぬかさんま、ひめます、本数の子山海漬け、炉端焼き、釧路地酒等	釧路市
ほくげん大根、さおまえ昆布、牡蠣	釧路町
牡蠣・あさり、厚岸かきしょうゆ、秋刀魚、かき最中等	厚岸町
とろろ昆布、ほっき貝、北海大あさり、花咲がに、北海しまえび等	浜中町
ジャンボしいたけ、ワカサギの佃煮、いかだ焼、牛缶、飲むヨーグルト等	標茶町
摩周鯛、摩周そば、摩周メロン、いもっ子だんご、くまざさ焼酎摩周湖等	弟子屈町
ヤマベ甘露煮・昆布巻き等	鶴居村
干魚（ししゃも、こまい）ししゃも、筋子、絵文字昆布、螺貝、蛸等	白糠町
秋鮭、いくら、アサリ、ウニ、カレイ、毛ガニ、昆布製品各種等	根室市
ほたて、べっかいのヨーグルト、べっかいの牛乳、アイスクリーム等	別海町
標津羊羹、アイスクリーム等	中標津町
いくら醤油味、標津産ほたて貝柱、天然鮭とばスライス等	標津町
甘口たらこ、いかの船上漬、エゾバフンウニ、宗八カレイ、らうす昆布しょうゆ等	羅臼町

資料）北海道市町村勢要覧等により作成

・各種資源の活用に加え、例えば観光ニーズとして高まっている「癒し」[注17]などのサービス向上と同時に、例えばツアーの安全性確保などへの配慮を両立させる。

・個人観光客に「ここでしか体験できない」[注18]自然環境や産業活動などの体験の提供と、阿寒湖温泉のガイドなど海外観光客に対する地元人材も活かした通訳など各種観光サービスの提供などによる釧路・根室地域の総合力により、釧路・根室地域の魅力の向上を図り、交流人口の増加を目指す。

図表15　釧路・根室地域における新たな観光メニュー

観光メニュー	市町村
厚岸古番屋冒険ツアー、別寒辺牛湿原カヌーツーリング、アザラシウオッチングツアー、アサリ掘り体験ツアー	厚岸町
魚河岸ツアー、石炭ツアー、パルプ港湾ツアー	釧路市
タンチョウ写真撮影ツアー	阿寒町
あったかふるさと再発見ツアー青い海コース	釧路町
しばれ体験ツアー	鶴居村
バードウォッチング	根室市
スギ花粉リトリート（避難）ツアー	上士幌町

資料）ウエブ、新聞記事等により作成

注16）図表14参照

注17）「観光の実態と志向（国民の観光に関する動向調査）」（日本観光協会）によると、（宿泊）旅先での行動に関して従来型観光の中心であった「自然の風景を見る（44.9%）」や「名所・旧跡を見る（28.5%）」などを「温泉浴（51.0%）」が上回るなど、「見る」観光だけではなく、「癒す」や「学ぶ（育む）」「遊ぶ」などにかかわるニーズの多様化が進んでいる。

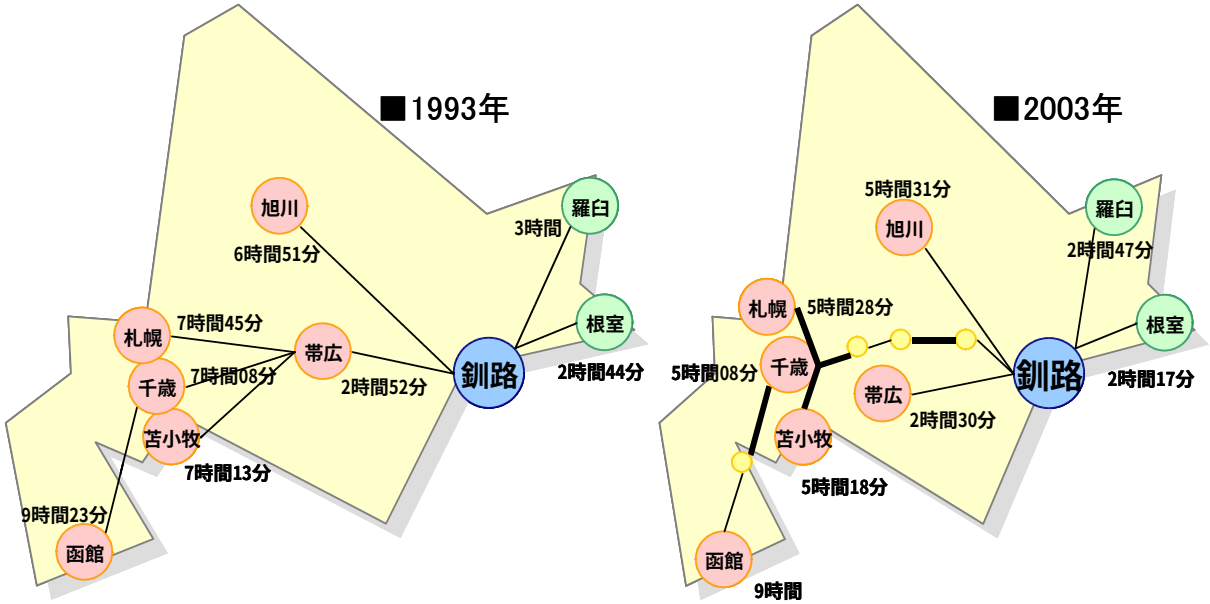
注18）図表15参照

・観光客の収容能力と国立公園など既に観光スポットとなっている場所の分布や、増加している海外観光客や個人観光客などの観光ニーズ・旅行形態の多様化を踏まえ、それぞれの地域が集団観光と個人観光のどちらを重点的に取り組むかなど戦略を立て、釧路・根室地域の中で役割分担と連携を図る。

・エコツアーなどの個人観光を振興するため多様な情報媒体を通じた観光情報の提供、ＰＲを積極的に推進するほか、通訳ガイドや修学旅行生の受入など地域全体での取り組みが必要とされるものについては、自治体や関係機関などにおける情報交換をさらに進める。

・主要観光スポット間の移動に時間がかかるなど北海道、釧路・根室地域の広域性に対応した観光産業の振興を図るため、交通アクセスの定時性・高速性[注19]を確保する。

図表16　道路による移動時間の推移



資料）北海道の道路ポケットブック2004（北海道開発局）等により作成

・また、例えば自動車による移動を念頭に置いた景観の活用や休憩施設の整備のほか、空港を起点としたレンタカーによる実際の訪問順路に基づいた各観光地における連携した取り組みを強化する。

・滞在型観光を促進するため、道外あるいは東アジア地域を中心にした海外などとの気候や文化などの違いを整理し、セールスポイントを明確にする。

注19）図表16参照

３．住みたくなる地域・生活環境の充実

- **雇用機会の創出**
- **利便性を確保するためのアクセス機能の向上**
- **豊かな自然を享受できる地域づくり**
- **地震・津波や豪雨・豪雪の災害に強い地域づくり**
- **北方領土との交流拡大と拠点機能の強化**

（基本的な考え方）

人口減少下においては、地域の全ての生活圏や各種機能を維持、拡大していくことは極めて困難であり、非効率である。
こうした視点に立った上で、「継続的に住みたい」と思えるような釧路・根室地域、より多くの移住者を受け入れられるような釧路・根室地域になるためには、持続可能な社会・地域の基礎・基盤となる人的資源と、医療・福祉など各種の専門的なサービスを提供しうる人材・機能を維持、確保するため、食産業や観光産業の振興などにより雇用の場を確保するとともに、豊かな自然環境を享受でき安心して暮らせる住環境と必要な利便性を確保する。

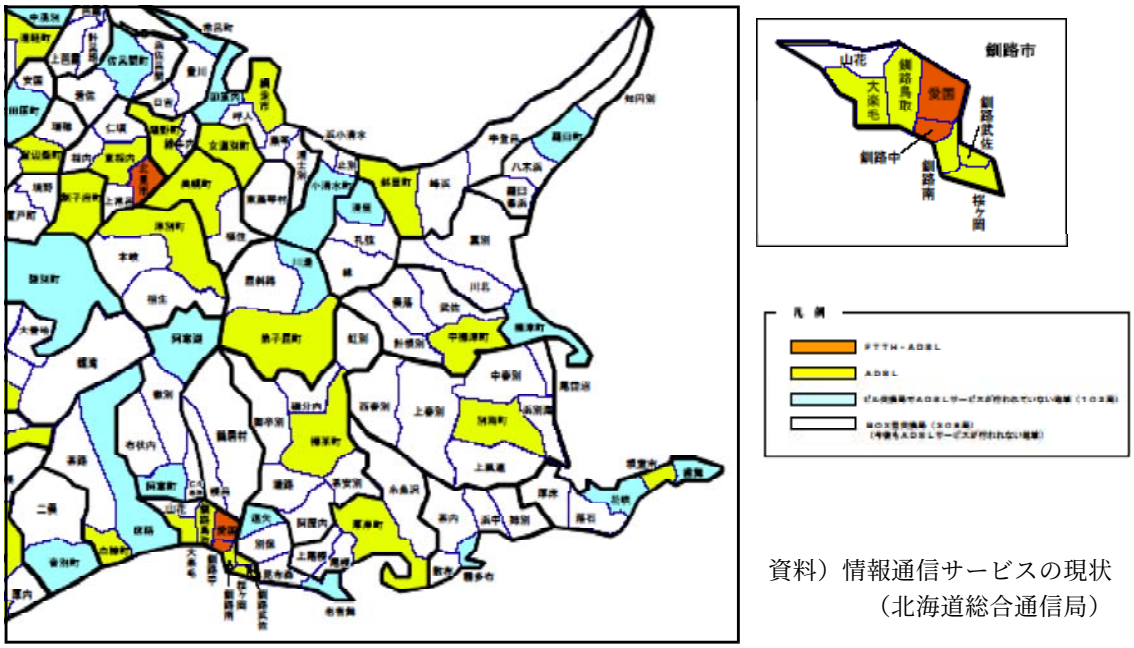
（具体的な取り組み）

・高付加価値化や観光との連携、ブランド化などを推進し、基幹産業である農業や水産業などの持続的な発展を通じ、釧路・根室地域での安定した雇用の機会を創出する。

・地域内循環などを促進させる先進的な取り組みや、各地域の持つ強みを連携した新たな産業・ビジネスの創造を推進することに加え、情報化における地域格差解消のためのブロードバンド化[注20]やユビキタスなど情報基盤の確保・充実を図る。

注20）図表17参照

図表17　ブロードバンドのサービスエリア



資料）情報通信サービスの現状
（北海道総合通信局）

・今後の生活基盤の確保、拡充のためには、物流に加え、特に自動車の利用ほか、高齢者などの視点に立った交通アクセスの改善を図る。

・地域医療を考える場合には、医療機能の集積、充実といった側面のほか、分散する居住地を念頭に置いた通院やドクターヘリなどによる救急搬送等[注21]の所要時間の短縮を図る。

図表18　釧路市への救急搬送数

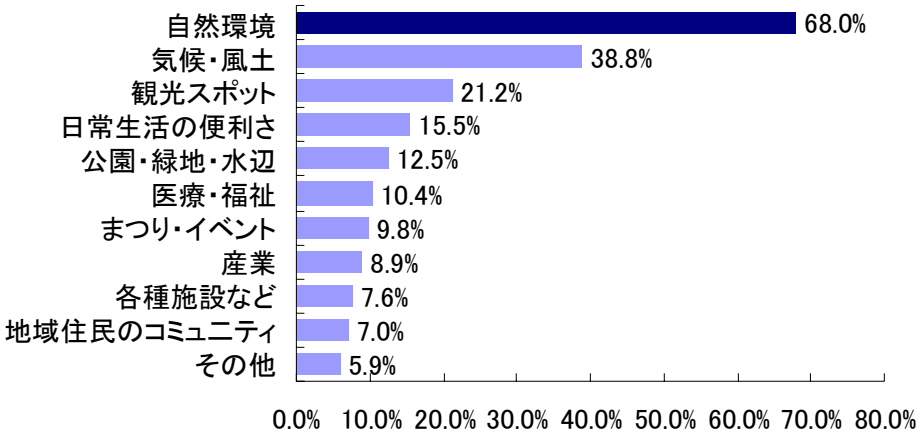
資料）北海道保健統計年報（北海道）

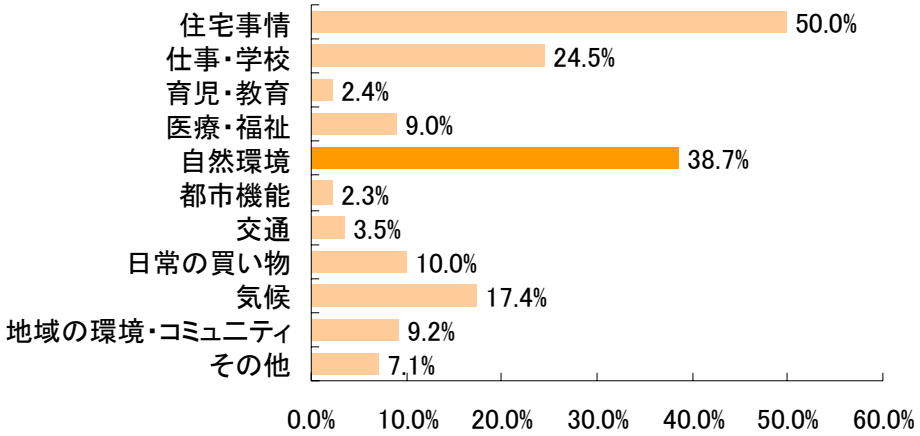
注21）釧路市には管内の病院・医師の半数以上が集中しており、年間2,000件以上の救急搬送や30万人以上の通院患者がいる。（図表18参照）

・釧路市が実施したアンケート調査結果[注22]からも明らかなように、地域住民にとって誇るべきものは「自然環境」であり、なおかつ住み続ける理由の上位にも挙げられている。

　このため、釧路湿原における「釧路湿原自然再生協議会」等による自然再生や、厚岸道立自然公園・周辺地域の国定公園化など、行政機関、地域住民、ＮＰＯ等が連携した自然環境を保全する取り組みと、それを享受できる地域づくりを推進する。

図表19　釧路市の自慢できるところ（上）／住み続ける理由（下）





資料）「まちの採点簿調査結果報告書」（釧路市）より上位のみ（複数回答）

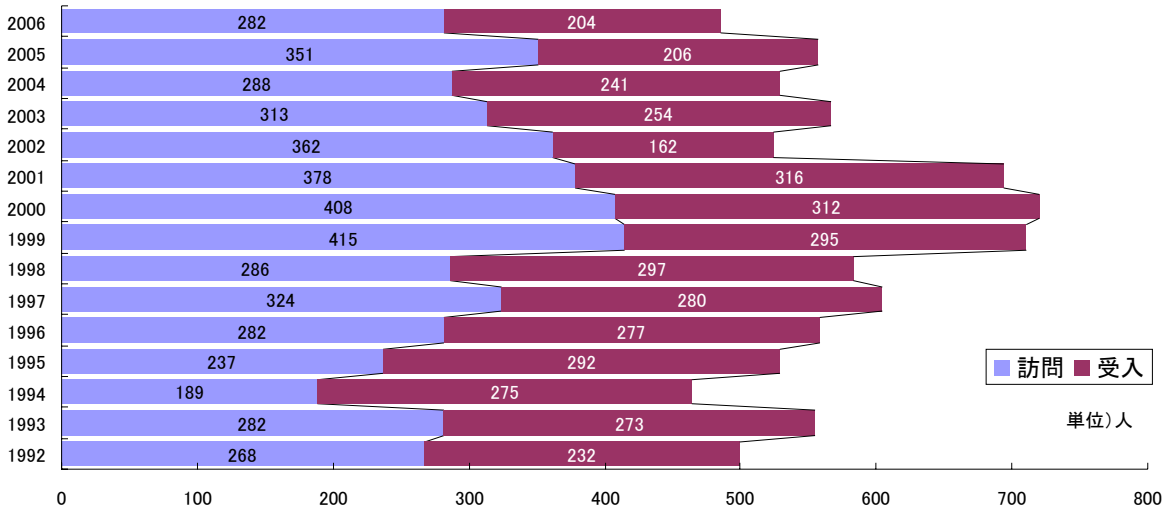
・生活基盤の安定的な確保のため、雌阿寒岳の火山噴火、地震・津波、豪雨・豪雪などの自然災害に対する防災、減災機能の向上とともに、福祉、教育などのサービスを維持するための交通アクセス機能の定時性、高速性を確保する。

注22）図表19参照

・災害発生時のための情報ネットワークの確立といった地域連携を強化するとともに、バックアップ機能の充実などライフラインの確保に向けた事前対応を充実させる。

・釧路・根室地域は、北方領土からの引揚者である元島民や関係者が数多く居住する地域であり、「ビザ無し交流」[注23]や「北方四島自由訪問」等において根室港が渡航拠点として位置付けられていることから、その交流拡大や拠点機能の強化を図る。

図表20　「北方四島交流事業（ビザなし交流）」　（北海道分）の実績推移



資料）「北方四島交流事業（ビザなし交流）」実績（北海道）

・北方領土の経済活動を見据えた多様な取り組みを展開するほか、「第５期北方領土隣接地域の振興及び住民の生活の安定に関する計画」や今後の交流展開などにしっかりと根ざした返還活動を推進する。

注23）図表20参照

４．東アジアなどとの関係の強化

・海外などの需要に応えられる生産・輸送システムの構築

・民間レベルにおけるビジネス交流の促進

・観光などの交流強化と地域ホスピタリティの醸成

（基本的な考え方）

釧路・根室地域の農業は道外市場との結びつきが強く、水産業ではスケソウダラなどは中国や韓国など主に東アジア向けの輸出が活発となっている。このほか、道内では秋サケやホタテなどの輸出が増加しており、販売量の増加に加え、国内産地価格の安定といった効果も期待されている。

今後迎える人口減少下においては、関東圏など国内の道外マーケットの拡大に加え、海外、特に増加基調にある東アジア地域との貿易など、釧路・根室地域の強みでもある安全・安心で質の高い「食」の輸出振興の強化を図る。また、海外観光客の増加も顕著であることから、特に東アジア地域との交流促進を深める。

（具体的な取り組み）

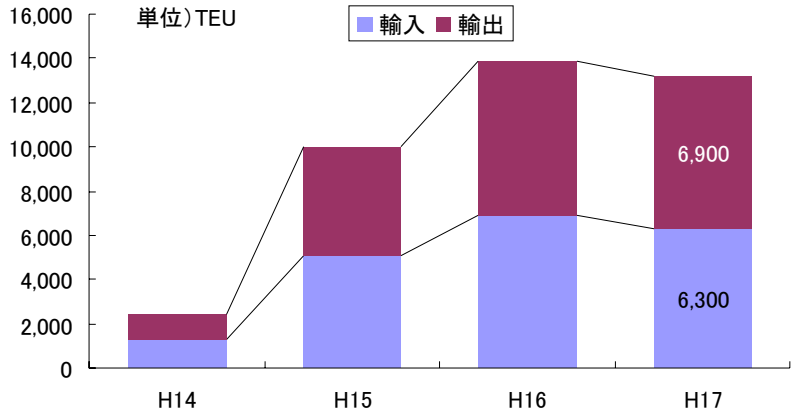
・十勝・網走地域も含めた地域経済に密接に関係している釧路港からの輸出入は、他の主要港に比べ荷役などの物流機能の面で十分でないとの指摘もある。このため、釧路港の物流機能[注24]を更に充実させ、サケやホタテ、生ダコ、スケトウダラなどの道外・海外市場の需要に応えられる競争力を付け、中国や韓国といった東アジアなどとの関係の強化を図る。

・航空便による国際観光振興や物流機能なども重要であることから、鮮度が求められる水産品の移輸出など、釧路空港のゲートウエイ機能の強化を図る。

注24）釧路港の第４埠頭において－14m岸壁が供用開始となり、平成14年８月より韓国・釜山港との外貿コンテナ定期航路が開設された。平成17年は通年運航3年目で、輸出6,900TEU（20フィートコンテナに換算してコンテナの数量を計る単位）、輸入6,300TEUの合計13,200TEUと平成16年の13,873TEUを下回ったが、臨時便が12便運航し、定期便と合計で64便が運航された。（図表21参照）

注25）例えば生ダコやスケトウダラは、苫小牧港（釧路市から平成９年433分→平成16年343分へと短縮）及び小樽港（同じく平成９年470分→平成16年383分へと短縮）へのアクセス改善により、韓国向けの鮮度を維持した迅速な輸出が可能となったため、輸出量も増大している。

図表21　釧路港における外貨コンテナ貨物の推移



資料）外貨コンテナ貨物の推移（北海道開発局）

・安心・安全で質の高い食品や加工品の地域内循環を促進するとともに、引き続き関東圏などの道外マーケットにおける販売強化を図る。また、鮮度の高い生ダコやサケなど、東アジア地域をはじめとした海外における質の高い食品に対するニーズが高い[注26]ことから、民間レベルでのビジネス交流を促進する。この際、観光なども含めた人的交流を進めるとともに、これら交流を下支えする地域ホスピタリティの醸成を図る。

・東アジア地域などからの滞在観光を促進するため、気候や文化などの違いを明確にし、セールスポイントを積極的に情報発信する。（一部再掲）

・海外からの観光を促進するため、東アジアなどとの文化交流を強化するほか、道の駅等での各種情報提供の充実や標識の多言語表示やカーナビゲーションシステムの複数言語対応、言語に依存しないマップコードによる誘導など、ソフト面の充実も図る。

注26）「水産物供給を通じた地域波及状況の検証」（沼野祐二、種市俊也）によると、北海道で獲られたホタテ活貝のうち87.9%が加工場などに出荷されているが、現在は鮮度維持によりこのうちおよそ14%程度が加工用として中国などに輸出されている。

５．地域を支える基盤づくり

- 他地域も含めた役割分担と広域連携の推進
- 大学などの機能の活用と地域を支える人材の育成
- 企業や住民など協働体制の推進
- 域内循環型経済の促進
- 情報システムの確保によるユビキタスの実現
- 地域構造を念頭に置いた交通基盤整備
- 既存社会資本の効率的な維持・管理と有効利用の推進

（基本的な考え方）

人口減少下において、釧路・根室地域が目指す将来像を実現するため、釧路などの都市圏と周辺地域や札幌圏など他地域との機能や役割分担を明確にするなど、釧路・根室地域全体としての効率性・利便性の向上を念頭に置き「集中と選択」といった視点から地域構造を見直す必要がある。この地域構造の見直しを通じ、広域連携や人材育成、交通基盤整備など、釧路・根室地域を支える各種基盤の強化を図る。

（具体的な取り組み）

・人口減少下においては、釧路・根室地域の各市町村が有する機能、役割を明確にした上で、それぞれが足りない部分を補完すべく連携を進める。

・必要となる機能全てを地域内でまかなうことは困難であることから、近隣のオホーツクや十勝、あるいは道央圏や道外などで充実している機能を有機的に取り込むなど、釧路・根室地域内とその他の地域も含めた広域連携を推進する。

・釧路・根室地域にある人的資源の充実、人材育成はもちろんのこと、外部人材の導入、活用なども重要であることから、既存産業だけでなく、これら人材を活かした新たな産業の育成などにも取り組む。

・地域住民の参加意欲を醸成したり、自発的取り組みをさらに促すような顕彰や啓発などを行うほか、ＮＰＯなど釧路・根室地域における新たな取り組みの「担い手」となりうる人材の発掘、育成も進める。

・高付加価値化やブランド化を推進するためには、各種技術やノウハウなども積極的に釧路・根室地域に蓄積・活用していく必要があることから、そのための環境整備や実際にビジネスで活かす「仕組み」を構築するほか、大学など研究機能の活用を図る。

・域内での生産、流通、消費は、地域経済に対する貢献が極めて大きいことから、「釧路・根室地域ブランド」の定着による地元産品の活用、消費を拡大し、域内循環の活発化を図る。

・将来的な地域構造の変化なども見据え、ＩＴを活用した遠隔医療や教育などの可能性を検討し、必要となる基盤整備を図る。

・「集中と選択」を効率的に実現させるため、道路網を中心にした交通アクセスの改善による移動時間の短縮を図るほか、観光など社会資本が持つ多様な機能の発揮や、地域住民、利用者など多様な主体が参画する新たな視点からの取り組みを推進する。

・交通基盤整備は、釧路・根室地域の自然環境や景観などに加え、釧路市などの中心市街地活性化にも充分配慮して進め、特に都市部の魅力を効率的に集約して、活性化などの相乗効果も期待されるコンパクトシティの実現なども念頭に置いて進める。

・「集中と選択」の視点から、新たな整備が必要な社会資本と既存の社会資本を効果的に連携させ、既存の社会資本の効率的な維持・管理や社会情勢の変化などに対応した弾力的な利活用など社会資本の利用最適化と有効活用を図る。
・将来像の実現に向け、ハード的施策とソフト的施策を効果的に連携させるとともに、行政、民間企業、地域住民などが協働した取り組みを推進する。